



天平のひろば

2025 年 1 月発行

93 号

☎/Fax 0742-34-7713

e-mail npoheijyou@yahoo.co.jp

http://www.heijyonet.nara.jp

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）

〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

平城宮跡の保存と活用に総力

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素より、会員並びに関係者の皆様におかれましては、NPO 平城宮跡サポートネットワークの運営にご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



2025 年は、「大化の改新」が成った「乙巳の変」と同じ干支にあたり、「物事が結実する年」や、「再生・変化する年」ともいわれています。この故事

にあやかり、今年も平素の努力の積み重ねにより、皆様の望みが叶う年となることを願っています。

さて、過日、再来年の春に第 77 回全国植樹祭が平城宮跡を会場にし、開催されることが発表されました。私たちが日頃の活動の場としているフィールドに、両陛下はじめ県内外から、4 千名のお客様をお迎えできることは大きな喜びです。益々愛される平城宮跡となっていくことが、私たちに求められてくることでしょう。

今日の平城宮跡の美しい環境は、23 年間、地道に続してきたクリーン活動の成果といえます。

本年も、多くの環境関係団体との連携と近隣市民との協働により、この素晴らしい自然環境を守って参りたく思います。

また、平城宮跡から出土した古代瓦や木簡、或いは「かりうち」の普及活動は主に、地域や学校行事などのイベント参画型で実施してきましたが、奈文研や公園管理センターと共同で、幅の広い文化財公開事業となるように着実に活動を進めていきます。

一方、資料館といざない館における歴史講座を年間 15 回開催し、毎回ほぼ満席となるほど好評を博しております。平城宮跡ファン醸成に向け、更に工夫して開催していく積りです。歴史公園ガイド事業

は、「奈良時代を今に感じる」のコンセプトを踏まえた語り部として、これまでに 18 万 5 千人もの来場者に語りに語ってきました。

本年、国交省の東楼工事の完成も見込まれ、復原事業への理解はガイドを通して広げて参ります。

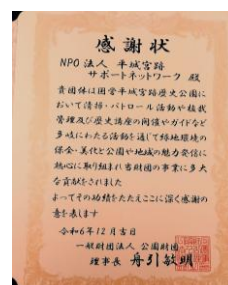
会報紙「天平のひろば」は今年中に 96 号の発刊を予定。更に、紙面の充実を図り来年の記念すべき 100 号を目指して力を入れていく所存です。本年も皆さまのご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。（鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長）

平城宮跡歴史公園ガイド研修会

1 月 25 日 いざない館で公園ガイドスキルアップのため、令和 6 年度平城宮跡歴史公園ガイド研修会を開催。鈴木浩理事長、華表（とりい）洋二分室長から日頃の活動体制、運営上の周知事項などの説明後、今井晃樹奈文研都城調査部副部長の「復原建物の瓦当文様の考察」、（一社）ならにみつ生駒あさみ代表理事の「平城宮跡の魅力を伝える」講演があり、52 名は熱心に聞き入っていました。（編集部）



公園財団理事長から感謝状

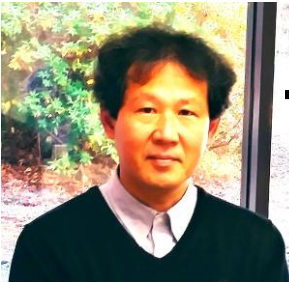


令和 6 年 12 月吉日 NPO 平城宮跡は公園ガイド、歴史講座、緑地環境の保全など、多岐に亙る日頃の活動は多大な貢献と、舟引敏明公園財団理事長から左記のとお

り、感謝状を拝受しました。（編集部）

市 大 樹

(大阪大学大学院人文学研究科教授)



第52回平城宮跡歴史文化講座は1月18日平城宮跡資料館講堂で107名を前に「－ 律令を読む － 古代の交易活動はどのようなものであったのか」と題し講演。

古代の交易については関市令に規定されている。関市令は20条で前半の10条が関、後半の10条が市について規定されている。関市令だけで分かり難い箇所は延喜式なども参考にして理解する。

「市」は正午に集まり、日没前に鼓を3度打って終わる。

養老令では、左右の京職の被官として東西の市司は正(かみ) 佑(じょう) 令吏(さかん) や価長、物部、使部、直丁が置かれた。平安時代になると月の前半は東市、後半は西市が開かれたと延喜式に書かれている。東市と西市では取り扱われている品物にも違いがある。商品は、品物の種類ごとに品質を三等に分け交易された値段を10日毎に記録し季に1度本司に報告する。皇親や五位以上の者は利益を求めるための交易は禁じられている。

衛士や地方から出てきて雑用をしている者は、市で売買はできないが、酒や食料は例外として認められている。官が私人との交易で物品を支払いに充てる時は中等の価格で行う。

市で使う秤(権衡、度、量)は毎年2月大蔵省が検査する。京外の場合は所在の国司が行う。秤(さおばかり)を使う場合は格(横木)に懸け、斛(こく)を用いる場合は棒で盛り上がり方を平らにする。

奴婢の売却をする際は保人・証人を立てて所属官司に申し出て市券の交付を受けて対価を付けるが、馬や牛は保人・証人を立てて私券を作成すればよい。横刀や鞍は作成者を記入する。市では、男女は坐を別々にする。粗悪品や偽物は官に没収される。寸法が規格に足りないものは売主に返される。官が購入する物品を除けば市で交易する。官私ともに自由に

値段を付けるが時価を大幅に乖離することは許されない。

交易の様子は関市令だけでなく発掘された木簡からも分かる。飛鳥時代には、軽(橿原市の丈六)や藤原京の北側で交易が行われたことや、日々の交易を記載し銭を束ねて管理していることも分かる。

長屋王木簡からは屋敷内で余った飯や酒そして、全国から送られてきた品々を、交易していることも分かる。(編集部)

平城宮跡歴史文化講座(次回)

5月24日13時30分～寺崎保広(奈良大学名誉教授)
「演題未定」＜続いて通常総会/交流会開催＞

第4回かりうち大会

11月4日朱雀門ひろばで開催された第4回かりうち大会は多様なエントリーとなり、競技部門(経験者16組)とチャレンジ部門(初心者30組)に分かれて対戦。今回は大いに盛り上がっていました。



かりうちゲーム&表彰式

(文化・ガイド部会)

植込みの剪定に汗！

11月12日NPO平城宮跡会員ら10名は、資料館南佐伯門通路上の草刈り、および北側斜面の植込みの剪定、その他、資料館中庭、梅林北トベラ生垣の剪定などに気持ちの良い汗を汗を掻きました。



斜面植込みの剪定(正面は奈文研庁舎)

(緑の保全部会)

好評 平城京 歴史講座

青木章二さん（NPO 平城宮跡会員）が11月9日103名を前に『やまとの方言』『関西弁？奈良弁？大和弁？大和言葉？』と題し講演。



大和として栄えた奈良県は藤原京・平城京の造営時に大勢の人達が全国から集められ造営後残った人たちの言葉や地域的に近い言葉からも多くの影響を受けている。

アクセントは関西（京都、大阪）と同じで十津川村だけが東京式アクセントで日本有数の言語島の一つです。奈良弁は他の府県には殆ど広がっていないが、御所に仕えていた女房が使う「女房ことば」が京都弁として奈良県の大半に入り込んでいる。

方言は北部と南部の二つに大きく分けられ、その境界は天辻峠・伯母峰峠の線でハッキリ分かれている。奈良弁は大和弁ともいわれ奈良県の北部中部で使われる言葉で特殊な訛り等なく京都・大阪等と共通性がある。

大和言葉は「去（さ）る」を「いぬ」と言うように古くから奈良で使われている奈良弁だけでなく、今は平安時代からの雅な言葉と言われる洗練された上品な言い回しの言葉を指すことが多い。

（編集部）

柳澤秋介さん（飛鳥歴史公園事務所所長）が12月14日90名を前に「国営飛鳥歴史公園」と題し講演。



飛鳥は日本の国家形成はじまりの地で、現在では飛鳥京および藤原京の所在する明日香村とその周辺地域とされている。そこに急激な都市開発や宅地開発の波が押し寄せ、

S41年に「古都保存法」が施行された。

しかし飛鳥村は保存と開発で大きく揺れ動き、S41年12月に「飛鳥地方における歴史的風土および文化財の保存等に関する方策について」閣議が決定。保存と共に環境の整備、財団法人が設立された。その後、高松塚古墳の壁画の発見によって

未曾有の大勢の人が訪れることとなり「歴史的風土の保存」と「住民生活の調和」の問題が改めて起きS55年に「明日香法」が施行され、これにより「全村」を特別保存地区とし規制された。

現在5地区の飛鳥歴史公園があり国営飛鳥歴史公園事務所等によって管理・整備されている。

今は、「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産の登録に向けて奈良県はじめ3市村は文化庁と連携、活発な動きを展開している。（編集部）

橋本輝彦さん（桜井市埋蔵文化財センター長）が1月11日177名を前に「邪馬台国論争の中の纏向」と題し講演。



邪馬台国論争は「魏志倭人伝」をもとに江戸時代から行われているが、纏向遺跡は九州の諸遺跡群と共に有力な候補地である。

纏向遺跡は3世紀初めから4世紀前半にかけて突如あらわれ廃絶し時代的に邪馬台国と符号する。

弥生時代の集落より大きい、集落が拡大したのではなく人工的に造られた都市である。建物は竪穴式住居が築かれず高床式や平地式で、土器や出土品は九州や吉備、関東などの広範囲から運び込まれたものが多い。農具用の鍬が少なく土木工事用の鋤が多く、水田や畑跡がなく農業を営んでいない。瀬戸内海の行き止まりで横大路など古代の交通の要所である。纏向型前方後円墳など古墳祭祀に続く主要な要素を完成させ、纏向型や箸墓型の前前方後円墳が列島各地に展開された。これらは纏向が極めて政治的な都市であることを示している。

邪馬台国論争は文献による検証は限界にきていて今後は考古学的な検証の重要性がより増してくる。考古学的成果から纏向は非常に有力な候補地である。（編集部）

次回の平城京 歴史講座（いざない館）

2月8日：樋笠逸人（奈良博学芸部美術室研究員）

「平城宮と聖武天皇の即位・大嘗祭」

3月8日：大林潤（奈文研上席研究員）

「法隆寺建造物の昭和の大修理と古材」

4月12日：竹田正則（橿原市文化財保存活用課

副統括）「藤原京の造営について」

おだ ゆう き 小田 裕 樹

企画調整部 展示公開活用研究室 主任研究員



1981年福岡県北九州市生まれ。2003年九州大学文学部卒業、2005年同大学院修士修了。同年4月奈良文化財研究所に採用、2024年4月現在に至っています。

います。

小田さんは、学生時代、古代火葬墓を研究対象に入所後は、飛鳥・藤原地域と平城京をフィールドに土器・食器・都城・地方官衙をキーワードに研究し、飛鳥・奈良時代の考古学、日本古代律令国家の特質とはなにか、在地社会において律令国家の成立はどのような意義をもつのかについて、明らかにしたいと思っています。

最近は箸の普及を調べるなかで平城京跡（長屋王邸：現ミ・ナラ）から出土した皿に付いていた跡と、秋田城跡の「磚」に刻まれた記号が一致することに気づき、そこから天平人の遊びの復元研究に関心をもちました。そこで韓国「ユンノリ」由来の日本の「かりうち」を市民に広げるため、NPO 平城宮跡と連携し4回目のイベントを終えたところです。いずれは、ブロック別選抜の「平城宮跡全国かりうち大会」を開催したいと目論んでいます。

また、平城宮跡資料館での展示をはじめ最新の媒体YouTubeなどSNSでの情報の発信による文化財と研究成果の公開、そして史跡、文化財の活用研究、例えば、体験型ワークショップの実施など身近なところから親しんでいただく、さらに、より多くの方々に興味、関心を持っていただき史跡や文化財への理解を深めていただこうと「奈文研紀要」「奈文研ニュース」「なぶんけんブログ」などで情報発信に努めるよう取り組んでいます。

学生時代と違って今はサッカーで汗を流しつつ、大学後輩の奥さまと二人のお子さんとお正月は、船で九州に帰省するのが楽しみとのことです。

(編集部)

平城宮跡を“楽しむ”人たち

ドングリ拾いに多くの子供たち

10月27日80名の親子づれが恒例のドングリ拾いに集まり、3か所に分かれて愉しく拾ったドングリを奈良の鹿愛護会にプレゼントしました。



朱雀門ひろばに集まった子供たち

観光ボランティアガイドと歩く・なら

11月30日「聖武天皇即位・大嘗祭1300年記念ウォーク」を開催。スタッフ6名、ガイド5名体制で、県の担当者を含め35名の参加者が5班に分かれてスタート。皆さん「聖武天皇大嘗祭木簡」の実物展示に興味深く見ていました。（文化・ガイド部会）



聖武天皇大嘗祭木簡の展示(平城宮跡資料館)

新規会員の紹介/募集

新規会員の紹介 (1月1日現在)

和泉常晴さん、山田佳延さんが入会しました。

新規会員の募集〈活動支援/入会のお申し込み〉

❖個人が支援/活動 年会費 3,000円

❖法人が支援/活動 年会費 10,000円

◆お申込み：☎&ファックス 0742-34-7713

編集後記

2025(令和7)年は「巳」の年。「豊穰」「再生」「変化」「成長」という頼もしい意味があり「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年とも言われています。

皆さま 今年はどのような年になるのでしょうか。

(Y. S)